

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成26年度 臨時理事会 議事録

日 時: 平成26年10月23日(水) 13:00~17:10

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

深津泰彦会長、丸尾充、梅野哲雄、西川和人の各副会長、星芳樹専務理事、河内敏光、岸本和巳、熊谷秀樹、倉石平、小坂悦夫、佐々木三男、鮫島俊秀、品田奥義、庄司義明、高橋雅弘、塚田博己、野村俊郎、橋本信雄、原田茂、林直樹、福井晴次、堀井幹也、森野和泰、吉田長寿、吉田利治の各理事
<監事>

榊原みどり、高原洋太郎の各監事

<特任委員>

片山正明、坂本昌彦の各特任委員

欠 席: 青木隆、西井歳晴の各理事、小倉恭志、内山英司の各特任委員

議 題

(1) 統一リーグについて

1. 定足数の報告

塚田理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(27名)の過半数の出席数(出席:23名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

深津会長より開会の挨拶があった。

3. 報告事項

(1) NBLについて (丸尾副会長)

NBLのつくばロボッツのチーム保有会社(株)いばらきスポーツアカデミーの経営悪化で継続が困難となったことから、次期チーム保有法人が決定するまでの間、一時的にNBLにてチーム運営の管理を行うことになったことが報告された。

また、一部新聞報道のあった和歌山トライアンズの報酬未払いの件については、チーム側に確認したところ、昨シーズンの選手に対する報酬の一部(出来高払い分)が未払いとなっており、支払い時期については選手と協議をしている最中であることの説明があったことが報告された。

4. 議事

議長は深津会長が務めた。

(1) 統一リーグについて（深津会長、丸尾副会長）

はじめに丸尾副会長から10月12日に3x3ワールドツアーで来日したFIBAボウマン事務総長と会談を行い、これまでの進捗状況の説明を行ったこと、また、会談および帰国後の同氏によるFIBAからの正式文書では、進めてきたことの一定の評価はあるものの、まだ具体的な解決策には至っていない、また、統一リーグについては、資格停止を回避するためだけの急場凌ぎの解決策では、将来の日本にとって必ずしも有益な結果とならない懸念があるといったコメントがあったことが報告された。

次に、深津会長から統一リーグに関する今年6月以降現在までの協議の内容と新しいリーグのビジネススキーム案の説明があり、現時点では統一プロリーグに関する成案に至らず、本来であれば本日成案の審議を予定していたが、状況報告までとなることの説明があり、これについて質疑応答などを行った。

また、深津会長から責任者として問題解決に取り組んだものの、統一プロリーグについては今日までにJBA、NBL、bjリーグの最終合意に至らず、FIBAからの指摘に対して十分な方向性を示せないこと、FIBAへの回答に向けては関係者間で現在も前向きな努力が続けられているが、JBAおよび日本のバスケットボール界がより前進していくためには一刻も早い新体制への移行が必要との考えから、本日限りでの会長(理事)辞任が表明され、退席された。

続いて、この後の議事、進行についての確認があり、丸尾副会長が議事、進行を行うこととなった。

まず、会長辞任に伴う今後の対処について協議し、新たな会長の選任には規程に則り、会長候補者選定委員会の設置や評議員会の開催が必要なことから、当面は会長職務代行を選任し、改めて会長選任の手続きをとることが確認され、会長職務代行には丸尾副会長を選任することが決定された。

尚、リーグ問題については継続して協議を行うものの、新リーグ組織委員会については次回10月27日の委員会で今後のこと(方向性)について議論すること、また、10月29日に再度臨時理事会を開催し、FIBAからの指摘事項(男子トップリーグ、男子日本代表強化、ガバナンス)に関する方向性、FIBAへの回答について審議することが確認された。

以上